

梅窓院通信『青山』
 発行／梅窓院
 編集／青山文化村
 発行日／平成14年1月1日
 発行人／中島 真成
 住所／〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38
 電話／03-3404-8447 FAX／03-3404-8107
 ホームページ／http://www.baisouin.or.jp/
 E-mail／jodo@baisouin.or.jp

青山 AOYAMA

新年号
 No.7
 2002/01/01

題字／浄土門主総本山知恩院門跡
 第八十六世中村康隆猊下



謹賀新年

梅窓院第二十五世
中島真成



新年あけましておめでとう
 ございます。
 早いもので一年が過ぎ、お正月を迎えました。おかげさまでこの『青山』も二度目の正月号となりました。
 また、昨年からはじめました本堂復興工事も、来年七月頃の完成に向け順調に進んでいます。
 さて、本堂復興工事とともにこの四月から墓地の大規模排水工事に着手いたします。ボチボチ通りへの梅窓院からの排水を防ぐ工事で、雨水を浸透させ下水に流す、工期一年の工事になります。同時に未整理墓地の区画整理も行う予定です。これにより、梅窓院墓地のバリアフリーが完成することにもなりますが、誌面を借りまして、区画整理にあたる墓地の皆様に、深いご理解、ご協力をお願い申し上げます。
 なお、青山浄苑の新規墓地の分譲についてですが、かつて梅窓院が土葬をしていた名

残りから当初は宗派を問わずに分譲していましたが、今後は浄土宗の方のみへの分譲とさせていただきます。販売窓口も今後は日本エクスパートシステムさん一社にお任せすることも申し添えておきます。
 新しい年を迎えるに当たりまして、檀信徒の皆さんとお寺がより親密になっていくことが住職としての大きな願いです。
 工事中ではありますが、各種行事、より参加しやすい企画の日帰り団参など、一人でも多くの参加をお願いし、本年度の新年のご挨拶とさせていただきます。

境内散策

泰平観音菩薩

墓地の中央道を進み、右手の階段を降りた場所に観音さまが奉られているのをご存知でしたでしょうか。多くの方にお参りして頂けるようにと、本堂に奉られている観音様の御前立ちとして、平成十一年春に安置しました。

東屋の中に奉られているので、墓参の際のひと休みにぜひお立ち寄り下さい。



梅窓院通信

左馬のお話

今年の干支の午にちなんで、縁起のよい左馬のお話し。馬の字が逆に書いてある左馬。皆さんはこの意味をご存知ですか？「うま」を逆さにして「まう(舞う)」と読み、「舞」は祝いの席上で舞われる事から、招福の象徴とされています。また、左馬の姿が「右に出るものなし」「左うちわ」に通じることから商売繁盛にもつながるといいます。このことから左馬を持っていると無病息災、家運長久、福寿万来、事業成功など幸福に満ちた人生を送ることができると言われています。

行事紹介

念仏と法話の会

三月十四日(木) 午後一時～

法話 長野教区

寛慶寺副住職 水科善隆上人

※詳細は、同封のハガキを御覧下さい。

春彼岸会法要／彼岸寄席

三月二十一日(木)

法要 仮本堂にて

※詳細は、次号にてお知らせします。



春秋は周囲にバラが咲乱れます。





青山 梅窓院史

《梅窓院と浄土宗》

その六



梅窓院第二十三世中島真孝上人が師事した明治の名僧、上人像。

明治の仏教界は神仏分離令、そして廃仏毀釈という、仏教界にとっては、天地を覆すような出来事で始まりました。さらに肉食や妻帯が僧侶に許され、宗派を問わず公に妻をめとり、食べ物にも気を遣わなくてもよくなったのです。許されたからといって、そうするか否かは別物だとは思いますが、どうやら時代の流れの中で仏教界全体がその方向に動いていったようです。そうした中、浄土宗が社会に残した大きな足跡が教育機関、学校です。浄土宗は僧侶

養成所として全国に八つの学校を創設していました。北から、仙台、長野、東京、名古屋、京都、大阪、山口、そして福岡です。八つの支校は仙台、長野、山口が合併され、現在は五つの学校が残っています。

その五つは、芝学園、東海学園、東山高校、上宮高校、鎮西高校です。皆さんはいくつ知っていらっしゃるでしょうか。進学校として、あるいは甲子園で名前を聞いた高校など、知っていらっしゃる学校が意外とあるかもしれませぬ。

中島真孝上人と芝学園

さて、この学校の中で梅窓院の歴史と関わってくるのが、芝学園です。東京タワーのすぐ脇に聳える学舎は、三年前に建て直された九階建てで、中学一年生から高校三年生までの一環教育となっています。この学校の校長を務められたのが、梅窓院第二十三世中島真孝住職です。就任は昭和十七年でした。

中島真孝上人は明治二十二年に現在の埼玉県一ノ割に生まれました。農家の三男で幼名を荒木孝三といいました。孝三は七歳の時、倉常寺にあげられ、得度しました。得度とは浄土宗での出家で、その寺のお坊さんになるという

ことです。

孝三の出家にあたり師僧となったのが、時の倉常寺住職中島靈真上人でした。師の元で孝三の修行の日々が過ぎ、明治三十六年には芝学園に入学、そして卒業と同時に僧籍に入り、中島真孝の僧名となったのです。

その後、東京高等師範学校、今の国立筑波大学に入学、翌年の明治四十三年には、加行という浄土宗の住職資格をとる修行を終えています。

大学で学んだ英語で旧制中学の教師となり、青森、茨城で教鞭をとりました。そして母校芝学園に奉職することになったのです。

明治の名僧、上人

当時の芝学園の校長は真孝上人の恩師である先生でした。先生は浄土宗のみならず仏教界を代表する僧侶で、明治三十三年には第一回浄土宗海外留学生としてドイツにわたり、比較宗教学を学んでいます。

十一年に及ぶ留学生生活後、日本に戻った先生は、大学の教授を歴任しながら、社会事業、教育事業で活躍されました。生涯独身を通した明治の名僧の一人でした。

この先生に師事した真孝上人は、その影響もあったのか大正九年には海の向こう、



大正時代の本堂 (梅窓院絵葉書より)

アメリカのワシントン大学、そしてコロンビア大学を修了しています。ちなみに専攻したのは学校教育における宗教教育のあり方で、帰国後の自分のなすべきことを既に踏まえていたのかもしれませんが。

お檀家さんの中には真孝先生を知っていらっしゃる方も多くかと思いますが、やさしくて学問好きのお坊さんだったようです。さて、その後昭和に入ってから梅窓院の住職、そして芝学園の校長先生となるわけです。次回は真孝上人が梅窓院に入ったいきさつに触れてみましょう。

梅窓院を
困む人々

新年号にご登場いただくのは
梅窓院を創建した青山家の皆さんです。
廻れば藤原鎌足までの家系図が残る名家。
現在は写真スタジオを構える中野に訪れました。

土地や家屋はともかく
血だけは
売れません。
その継承こそ
使命です。



梅窓院開基

青山家

「最初は冗談だと思っていた
が、本当にそうだと知っ
た時は驚きました。でも、彼
は彼ですから、気持ちに変化
はありませんでした。」

昨年五月、取り壊す直前
の梅窓院本堂で結婚式が挙行
された。青山・家の縁組
みで青山さん、さん
ご夫婦が晴れて誕生した。
「実は港区の青山って、僕
家の名前からつけた地名なん
だ。」交際当時、さりげなく
さんに言った。さん
「最初は冗談だと思っていま
したが、本当にそうだと知っ
た時は驚きました。でも、彼
は彼ですから、気持ちに変化
はありませんでした。」

青山さんはこの梅窓院
を開いた青山幸成(よしなり)
の末裔で、郡上青山家第十四
代当主。このお二人、そして
さんの弟、さん、ご両親の
さん、さんとさん。
そして祖母のさんが現
在の青山家の家族構成だ。
さんは青山家の十四代
であると共に青山写真スタジ
オの二代目でもある。初代は
父のさん。さんは第
十一代幸宜(ゆきよし)さん
のお孫さんにあたるが、歴史

がお好きなこともあり、現在
は青山家の生き字引の一人
になっている。
そのさんがまとめられ
た家系図を見るとそのルー
ツはなんと藤原鎌足。そう、日
本史の教科書に出てくる大化
改新の功臣だ。
少し下がって青山家と名乗
り始めた師重が出てくる。名
前の由来は本紙でも取り上げ
たのでご記憶の方もいるかも
しれない。そして明治維新を
郡上で迎えた十一代幸宜以降
はぐつと家系図が横に広がる。
幸宜公には八人の子供がいる
が、そこに嫁いできた夫人、
あるいは嫁ぎ先は、みな名家
ばかり。中山家、井伊家、藤
堂家、松平家と歴史の教科書
に出てくる名前ばかりだ。
冒頭に結婚の話を書いたが、
十二代の弟に戦前に嫁いだ美
恵子さんの結婚は新聞騒動に
なり、軍が身元の調査にあた
ったという。またさんに
嫁いださんは、出身が
岐阜県ということもあり、「相
手は郡上の殿様とか」と町中
大騒ぎになったという。
やはり、名家はちよつと違
うようだ。そこにさんが
こんな話をしてくれた。
「うちは父も私も息子もみん
な大学中退です。父はその後、
軍人を経て日本馬匹輸送自動
車株式会社という会社を起こ
しました。馬術の得意な父は

オリンピックの監督を務めた
りもしました。私は三十年前
のフリーターを経て、今の写
真の世界に入りました。名家
とは思いますが、どうも清貧
の家系らしく父の頃からずつ
と借家暮らしです。
それこそ『武士は喰わねど
高楊枝』ではないですが、お
金に関しては淡泊ですね。」
こんな話を聞いて少し安
心したのだが、さんは現
在、仕事も順調で一階が仕事
場二、三階がご自宅の持ち家
にお住まいだ。とはいえ、質
実剛健な生き方を見ると、青
山家には武士の血が濃く残
っているなど感じられた。
さんの言葉を欄外に記した
が、まさに血筋はかけがいの
ない財産である。



明治維新を郡上で迎えた
青山家第十一代、幸宜公。



紋



春 夏

写真で綴る
なつかしの

梅窓院

二〇〇二年——。新年を迎え、梅窓院でも新本堂復興が順調に進んでおります。時代と共に様々な表情を見せる梅窓院ですが、今号はカラー特集でその面影をたどります。

梅窓院

本堂・祖師堂



山門



観音堂



大玄関

した念仏と法話の会。



青山浄苑のバラが満開となる六月。バラとワインの会でのソムリエ講座。

平成十三年、祖師堂での文化講演会。講師は北野大教授でした。

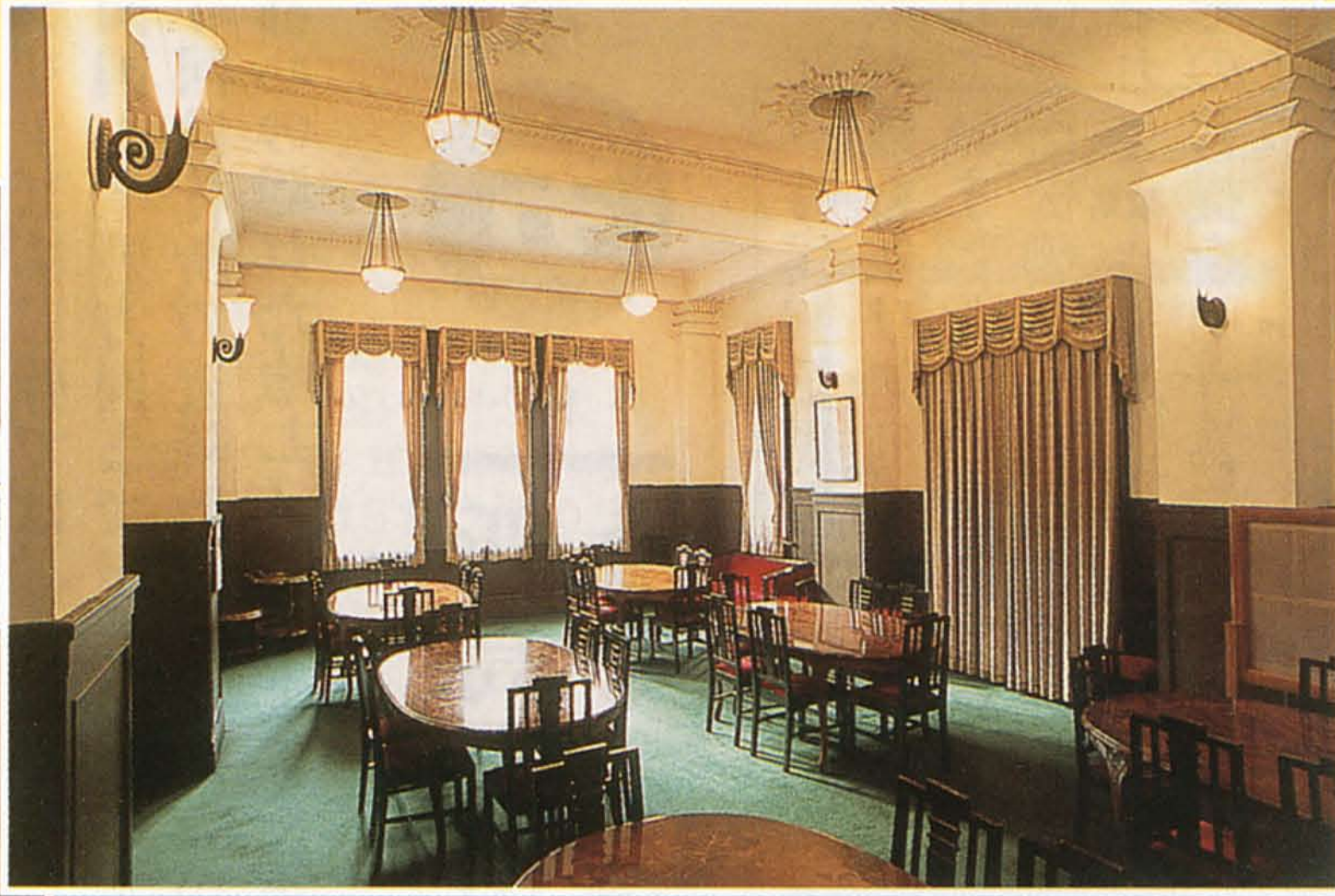


梅窓院でのイベント

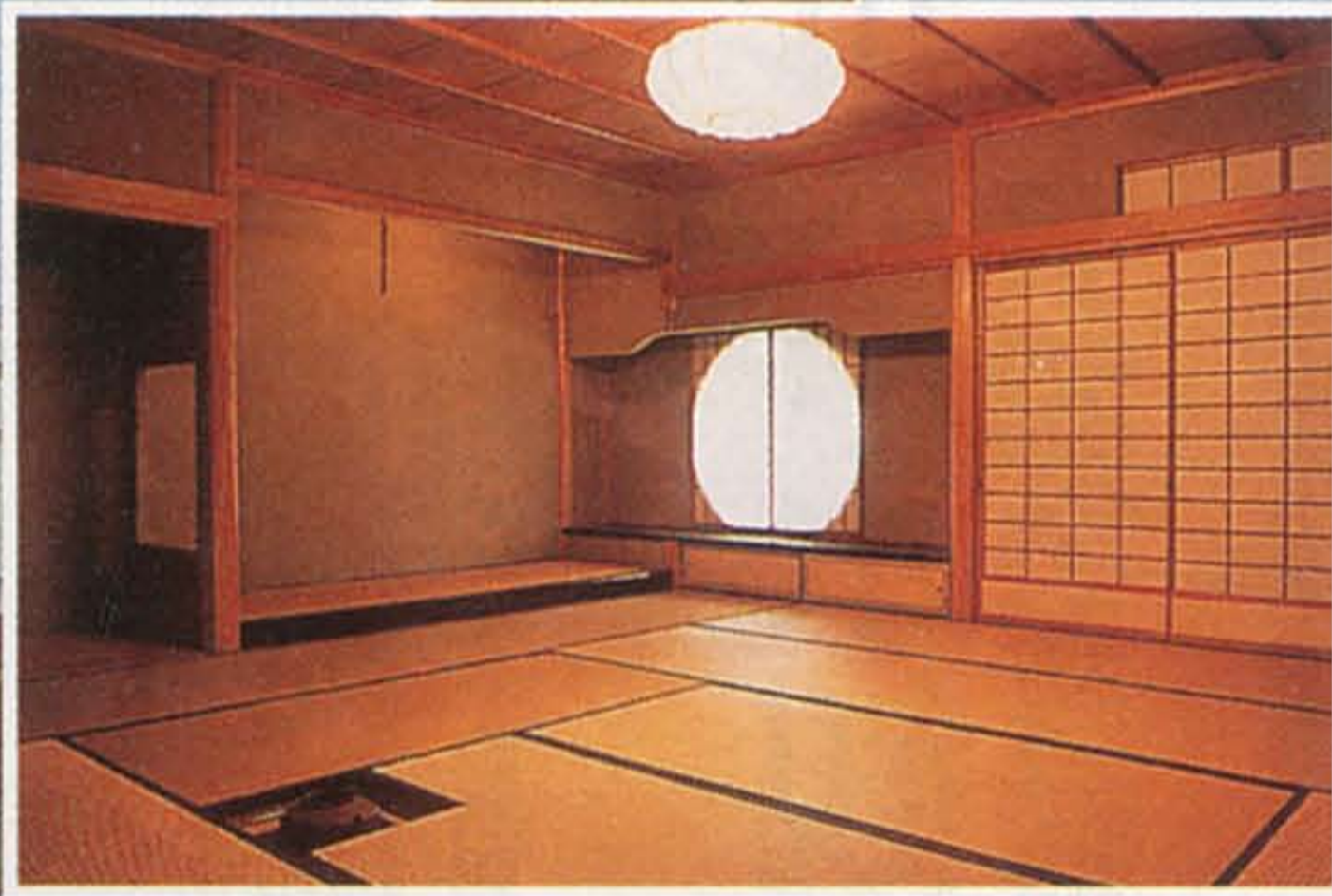
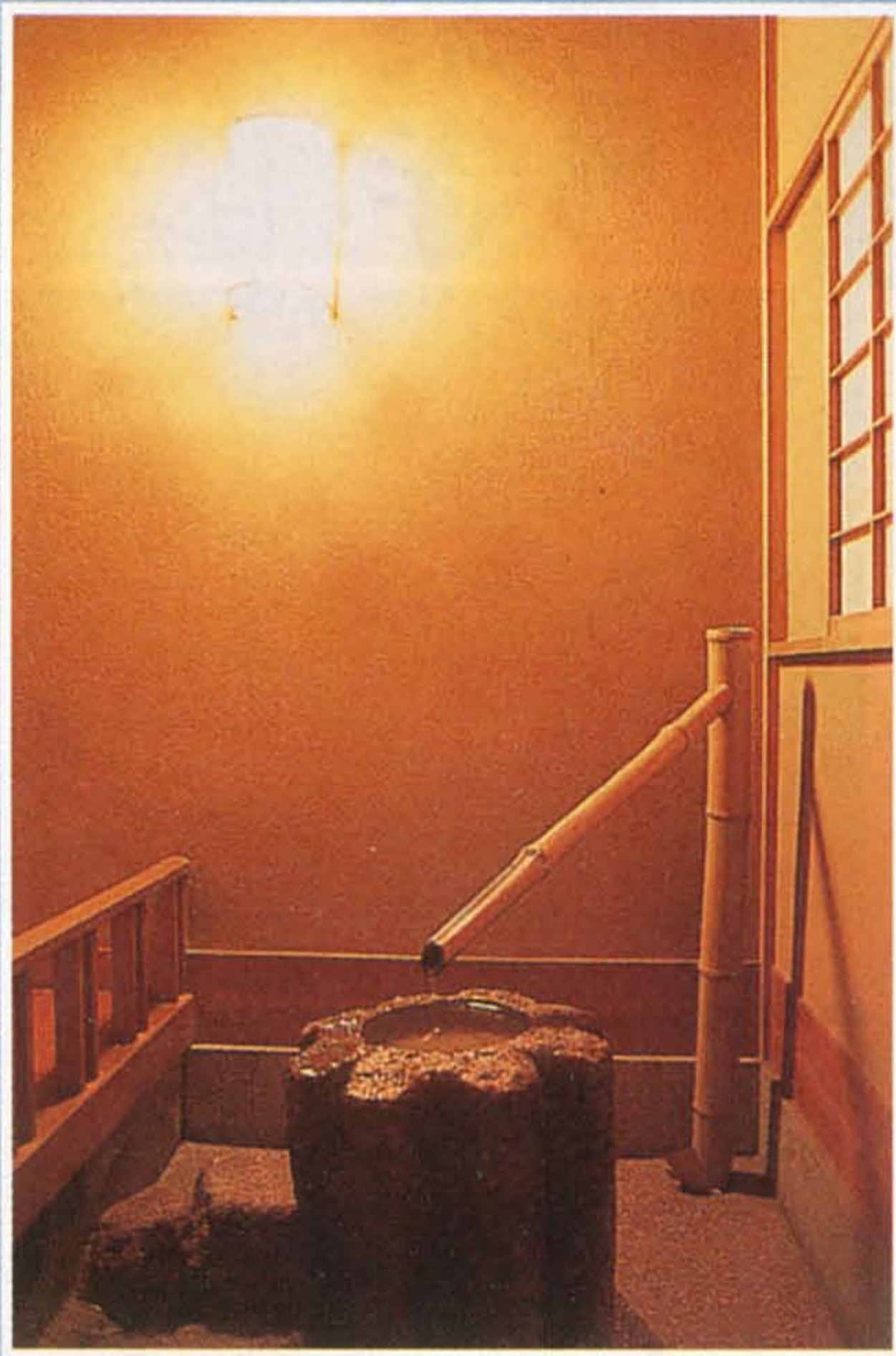
かつての梅窓院本堂は、大正十四年に「無碍光会館」という講堂として建てられたものでした。昭和二十年の東京大空襲により、本堂、観音堂など大部分の建物は焼失してしまいました。幸い残った講堂を本堂として使用し続け、約半世紀。長年親しんだ本堂も時の流れと共に老朽化が進み、この度、本格的な復興工事が始まったのです。今回の本堂復興は梅窓院にとって大きな飛躍となります。そこで、今号では昨年までの伽藍を特集し、なつかしの梅窓院をお届けいたします。

大控室

本堂外陣の椅子



茶室



冬 秋



受付



緋毛氈も鮮やかな両彼岸のお茶席。

年三回、客殿で開か



江戸三十三観音 札所めぐり

第二回



前回からスタートした三十三観音札所巡り。既にまわられたという方もいらっしゃるのではないのでしょうか？シリーズ第二弾では、両国〜上野方面まで足をのびします。今回は札所の近隣散策も交えながら都心の隠れた癒しスポットをご紹介します。

第四番 諸宗山無縁寺 回向院

安置 馬頭観世音菩薩

江戸の大相撲ゆかりの地にある両国の回向院。明暦三年に起こった『振袖火事』の犠牲者を弔うために建立したのが起源とされています。山門をくぐると左手には、徳川家達公によって揮毫された巨大な石碑「力塚」が目に入ります。相撲関係者の霊を祀った迫力ある石碑を、ぜひ御覧になってみて下さい。



JR総武線・都営大江戸線 両国駅から徒歩五分

第五番 新高野山 大安楽寺

札所本尊 十一面観世音菩薩

江戸時代、伝馬町には牢屋敷が建ち並び処刑場も併設されていました。安政の大獄では吉田松蔭などもここで処刑されています。明治に入り、その菩提を弔う為、大安楽寺は建立されました。御本尊の十一面観世音菩薩は江戸初期の作。現在の本堂は昭和初期の再建ですが、どこかモダンな雰囲気を残した、大変趣のあるお寺です。



営団日比谷線・小伝馬町駅から徒歩一分

第六番 東叡山 清水観音堂

札所本尊 千手観世音菩薩

上野公園の中に位置する清水観音堂は江戸時代に建立されました。京都清水寺にならった舞台造りの本堂は、国の重要文化財に指定されており、春には花見客で賑わいます。堂内には子育て観音が安置され、子宝を授けるとして信仰を集めています。



JR上野駅公園口徒歩二分

三十三観音近隣散歩 東京水辺ライン

水上バスでのんびりと

第四番の回向院を出てJR両国駅方面に進み、更に直進した国技館前に、水上バスのりばがあります。

この水上バスは、東京水辺ラインといって、隅田川から荒川、レインボーブリッジが美しい臨海部などを中心に運航されています。

ここは普通のクルージングだけでなく、毎月季節に合わせて催し物があったり、船上で懐石を頂けたりと、イベントが盛沢山。回向院をお参りした際には、ぜひ足を伸ばしてほしいポイントです。(月曜定休・9時~17時)



レインボーブリッジに向かう水上バス。



第三一番 未	第二八番 未	第二五番 未	第二二番 未	第十九番 未	第十六番 未	第十三番 未	第十番 未	第七番 未
第三二番 未	第二九番 未	第二六番 未	第二三番 未	第二十番 未	第十七番 未	第十四番 未	第十一番 未	第八番 未
第三三番 未	第三十番 未	第二七番 未	第二四番 未	第二一番 未	第十八番 未	第十五番 未	第十二番 未	第九番 未

第一番 浅草寺

第二番 清水寺

第三番 大観音

第四番 回向院

第五番 大安楽寺

第六番 清水観音堂

第七番 新高野山

第八番 諸宗山

第九番 馬頭観世音

第十番 東叡山

江戸三十三観音御朱印

読者の広場

私達檀信徒は、日々どのような仏に對し暮らすのがよいのでしょうか。
(中央区 Mさん)

諸仏が異口同音に説く教えが七仏通誡の偈であります。その教えの要は自らの心を清めよ、との言であり、その実践方法として、善行を為し、悪行を為さぬよう留意し努力せよとの言であります。その清められた心をもって、仏法僧の三宝に帰依し奉り、敬い大切にして生活していくことが、仏教徒の生き方なのです。仏とは宇宙万物の真理、法はその教え、僧は宇宙万物との調和であります。真理の教えを拠り処として日常の生活で調和を保つべく精進することが仏の心に生きることです。あります。仏の心とは他を思いやる心であり慈悲の心。その心が阿弥陀仏の心であり、念仏する心であります。その心を保って精進していく姿勢が檀信徒のあるべき生活であります。
(薬谷)

沢山のご意見をお寄せ頂き、ありがとうございます。お寺を身近に感じる紙面づくりに励んでおりますので、引き続きご意見・ご感想を、お待ちしております。
〒107-0062
港区南青山二二六三三八
梅窓院 青山文化村 宛



青山散歩道

伊豆の旬 やんも

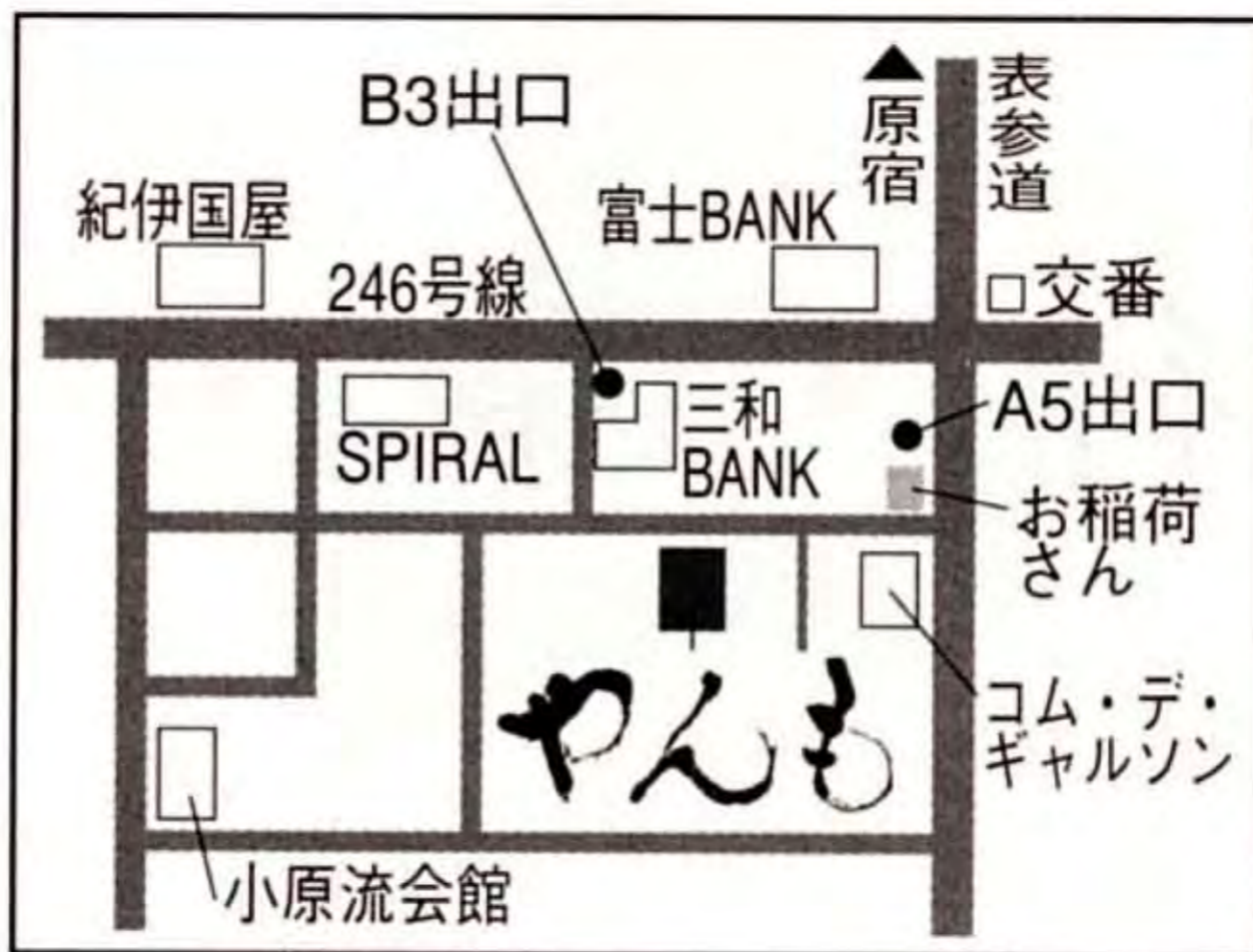
新鮮な伊豆の地魚を、青山にいなながら頂けるのがこの「やんも」。

川奈港で水揚げされた魚を直接買い付け、毎日お店に直送。季節のものが新鮮なままお店に並ぶという訳。特に冬場はキンメ、タチウオ、アオリイカが美味しい時期。やんもではお刺身、煮付け、焼き物と様々な頂き方でたっぷり堪能できる。

店内は和風でありながらモダンな雰囲気漂わせる。カウンタース席から、七、八名用の個室、一五名まで座れるテーブル席などあり、用途に合わせてお早めにご予約を。

土・日・祝日限定の仕出し料理も、旬のものをふんだんに取り入れた充実した内容。五名以上なら休業日でもお店を開けてもらえるというからぜひご相談を。会合や法要後の会食などにも最適です。

TEL 03-5466-0636
港区南青山5-5-25
T-PLACEビル地下1階
(表参道A5出口徒歩3分)
11:30~13:30
18:00~22:30 (21:30 L.O)
日曜・祝日・年末年始休業
※日・祝日は5名以上のグループから予約受付。お電話にてご相談下さい。



土曜日限定「伊豆の旬」御膳。予約は不要で3800円。



落ち着いた雰囲気店内。



入り口は地下1階。

食は命なり

第五回

食養研究家
武鈴子

『黒豆』
生命の火種を守る

おせち料理に欠かせないのが黒豆の甘煮。前の晩から準備しておいて、煮崩れないように気をつかいながら砂糖を加えてふっくらと煮上げますが、この時使う砂糖は必ず黒砂糖を使いたいもの。黒豆の黒砂糖煮は、風邪による咳や声がれを治す作用があるからです。おせち料理の締めくくりに食べる黒豆は、寒気による病や食害から体を守る「おいしい薬」なのです。

黒豆はまた、滋養作用が大きく、血液循環をよくして肌をつややかにし、利尿作用も高いのでむくみを解消してくれます。腎臓が弱い人、むくみやすい人、リウマチ性疾患、高血圧症の人などは「酢黒豆」を作り置きしておいて、毎日十粒ずつ食べ続けるといつの間にか症状が改善されます。

<酢黒豆の作り方>

- ①黒豆の汚れを布巾で拭きとります。火力は弱めにしてフライパンでよく炒り続けること、およそ12~3分。皮が割れて中の白い豆肌が茶褐色へと変わっていきます。
- ②豆をボールに移し、豆の2.5~3倍ほどの甘酢（米酢に蜂蜜を加える）をかければ出来上がり。
- ③冷めるのを待って容器に移し変えて保存します。常温でも二、三ヶ月は平気です。豆を食べ終えた後に残る漬け汁がまたおいしい。

黒豆、黒ごまなど、色の黒い食品は漢方では腎臓の働きを補うといわれます。「腎」は生命の火種ともいい、人体で最も大切な臓器です。正月に黒豆を食べる習慣は、一年を無病息災で生きるための願いを込めた、私たちの祖先の生活の知恵だったのです。

青山俳壇

選者・『俳句朝日』顧問

大崎紀夫

秋刀魚／栗

◎特選

もてなしは一夜干しなる冬鰈

（評）知人を訪れたところ、一夜干しの冬の鰈でもてなしてくれた。鰈を軽く焼いて出してくれる心にくらげると言う句で、素直に己の心を出している佳句です。雑詠ながら特選に。

◎佳作

栗ごはん供へタベのお念仏

手まひまを惜しまずかけて栗ごはん

栗を掌に悪戯鬼のころ思ひ出す

故郷の母偲びある栗おこわ

球栗を杖で転がす奥多摩路

澄みし眼のまま焼かれる秋刀魚かな

大いなる黄金の粒や栗ごはん

◎選者詠

暮のいろ空に深まる栗ごはん

大崎紀夫

へワンポイントアドバイス

初心者の方や、案に詰まった方は『歳時記』を利用して、諸先生方の俳句からヒントを得ましょう。

投句募集

次回のテーマは「書初」「お年玉」とします。一月二十日を締切、三月上旬発送の『春彼岸号』にて発表させていただきます。応募は住所、氏名、年齢をお書き添え下さい。お待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38

梅窓院

「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集
青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、左記の番号までご連絡ください。
※ウエップ編集室
電話〇三五三六八〇一八七〇

行・事・報・告



新本堂地鎮式

九月六日 新本堂建設地にて
本格的な新本堂の施工にあたり、地鎮式が執り行われました。本計画に携わった多くの関係各社の方々にもお集まり頂き、建設中の安全祈願と新本堂の無事完成を願って念仏をお唱えしました。



鎮入れをする藁谷真敬副住職。

秋彼岸寄席

九月二十三日 仮本堂にて
爽やかな秋晴れの中、本堂にて三遊亭歌る多師匠による寄席が催されました。快活な師匠の一席で場内は笑いに包まれました。

表情豊かに場内を賑わす歌る多師匠。



万福哲泉 螺鈿展

九月十四日から十六日の六日間にわたり、鎌倉芸術館にて万福哲泉氏による螺鈿展が開かれました。香炉箱や螺鈿蒔絵が展示されたギャラリーには、繊細な美しさを放った作品の数々に魅了された人たちが賑わいました。



有職文様 香炉箱

平成十三年度 梅窓院団参 法然上人二十五霊場巡拝

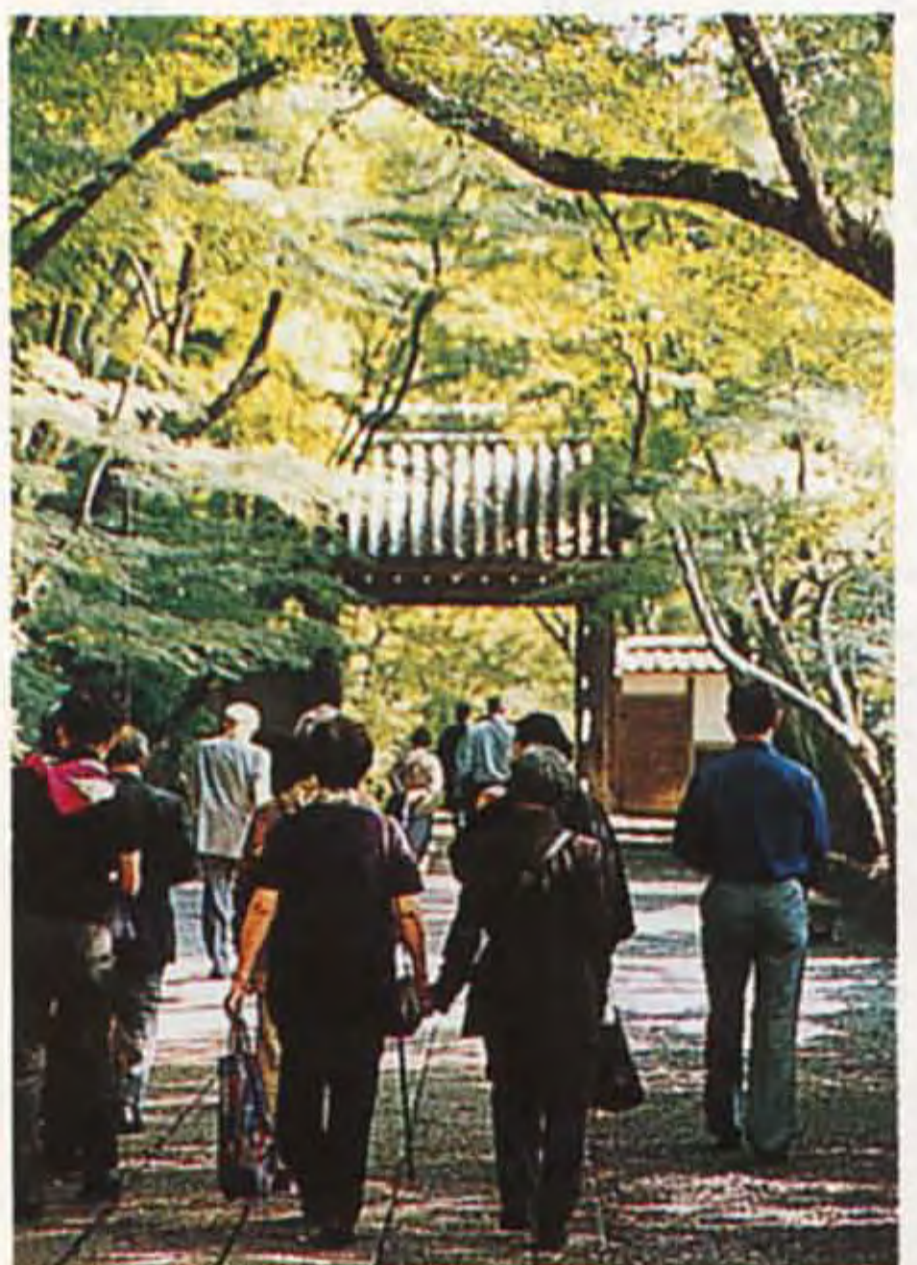
十月九日～十一日 開催

秋の行楽に相応しく、安らぎの古都、伊勢・京都を、お檀家様と一緒に訪ねました。

参拝した知恩院では、御門主中村康隆猊下による御十念と垂示（お話し）を頂きました。御年九六歳でいらっしゃる猊下からの、生かされている事の喜びについてのお話しは、とても意義深いもので一同大変感激しました。

今回をもちまして二十五霊場巡拝の旅は終了致しますが、来年度の団参も企画中でですので、どうぞご期待下さい。

のんびりと光明寺を散策。



仏教研究所だより

念仏と法話の会

十月五日 開催

講師 宮城教区

光明院住職 奥清隆上人

法話「仏像の心とかたち 三」
三回にわたって、仏像の見方についてお話し頂きました。
来年度は水科上人にお話しをお願いしております。どうぞお楽しみに。



勝林院にて記念撮影。

来寺される方へ お願い



日本堂跡地(十月二十一日撮影)

- 工事中の為、只今駐車場はありません。車での来寺はご遠慮下さい。
- 墓地にガラス等の割物を置くのは大変危険ですのでおやめ下さい。
- お手元に『墓地使用許可証』はお持ちですか？平成十二年よりお檀家様（お施主様）並びに、青山浄苑使用の皆様にお渡ししているもので、梅窓院内の墓地使用を認める大切な証書です。こちらの証書がないと墓地に納骨することが出来ません。納骨法要の際は必ずお持ち下さい。万が一紛失された場合は早急にご連絡下さい。